

2022年7月29日

2023年3月期 第1四半期 決算補足説明資料

東証プライム・名証プレミア 証券コード：2053

ホームページ <https://www.chubushiryo.co.jp/>

お問い合わせ先 TEL: 052-204-3050 総務人事部 総務課

◇ 連結経営成績	3
◇ 連結財政状態	4
◇ 畜産飼料の業界環境	5
◇ 飼料セグメント 実績	6
◇ 飼料セグメント 実績 ①畜産飼料	7
◇ 飼料セグメント 実績 ①畜産飼料 (続き)	8
◇ 飼料セグメント 実績 ②水産飼料	9
◇ その他セグメント 実績	10
◇ 今後の見通し①	11
◇ 今後の見通し②	12
◇ 参考資料	13

(単位：百万円)

	22.3期 1Q	23.3期 1Q	前期比
売上高	48,158	53,772	5,614
飼料	45,346	50,581	5,235
その他 ※1	2,811	3,190	379
営業利益	1,474	△ 210	△ 1,685
経常利益	1,592	△ 27	△ 1,619
セグメント利益	1,585	△ 29	△ 1,615
飼料	1,516	△ 302	△ 1,819
その他 ※1	182	267	85
調整額	△ 113	5	119
四半期純利益	1,134	△ 46	△ 1,180
設備投資額	720	897	177
減価償却費	747	694	△ 52

売上高

◇ 飼料セグメント
 畜産飼料の販売量増加と、
 販売価格上昇により増収

セグメント利益

◇ 飼料セグメント
 6ページ以降で説明

◇ その他セグメント
 11ページで説明

◇ 調整額
 受取配当金の増加と、全社
 費用の減少により改善

※1. その他セグメント：鶏卵販売・肥料・畜産用機器・保険代理業等

2. セグメント利益：税金等調整前四半期純利益

23.3期1Q 要約連結貸借対照表

(単位：億円)

流動資産	601	(+25)
現預金	19	(△28)
売上債権	396	(+33)
たな卸資産	144	(+13)

流動比率 243.1% (△24.4pt)

固定資産	304	(+0)
有形固定資産	243	(+2)
無形固定資産	5	(△0)
投資その他の資産	55	(△1)

総資産 905 (+25)

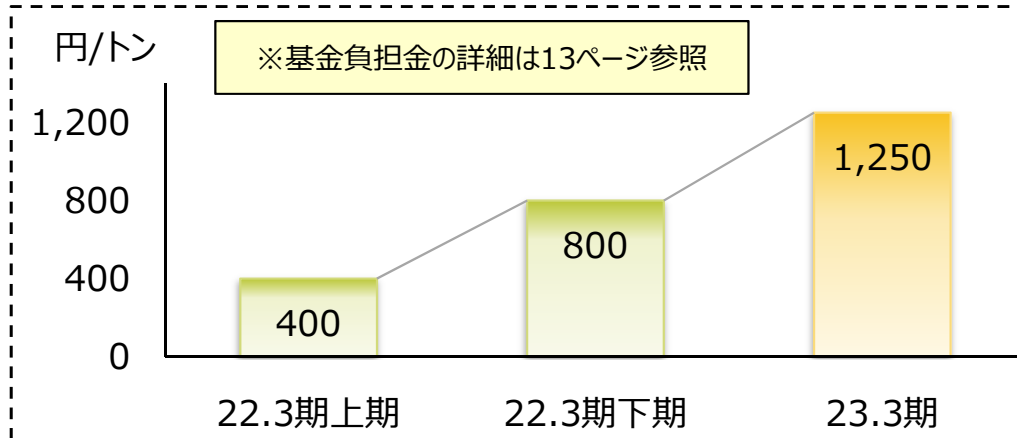
負債	290	(+31)
仕入債務	159	(+12)
有利子負債	69	(+28)

純資産	615	(△6)
株主資本	595	(△7)
その他包括利益	18	(+1)
非支配株主持分	2	(+0)

自己資本比率 67.7% (△2.7pt)

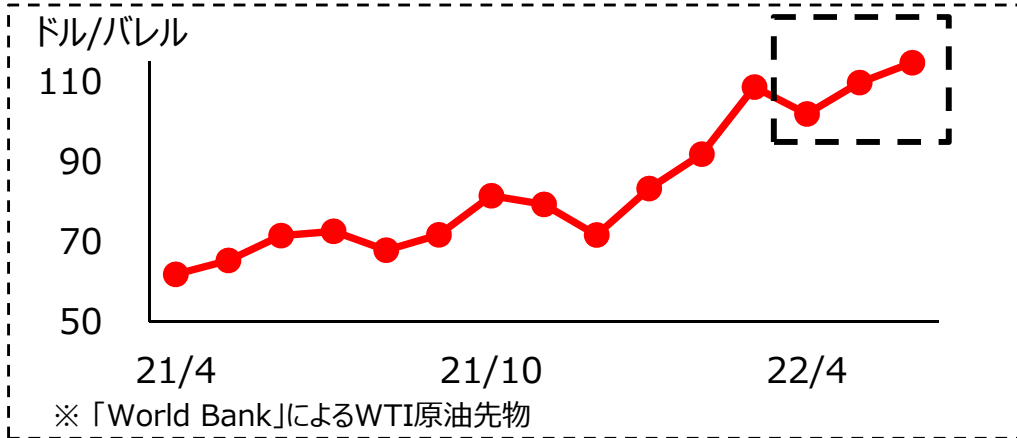
負債・純資産 905 (+25)

※ () 内の数値は、22.3期末との比較



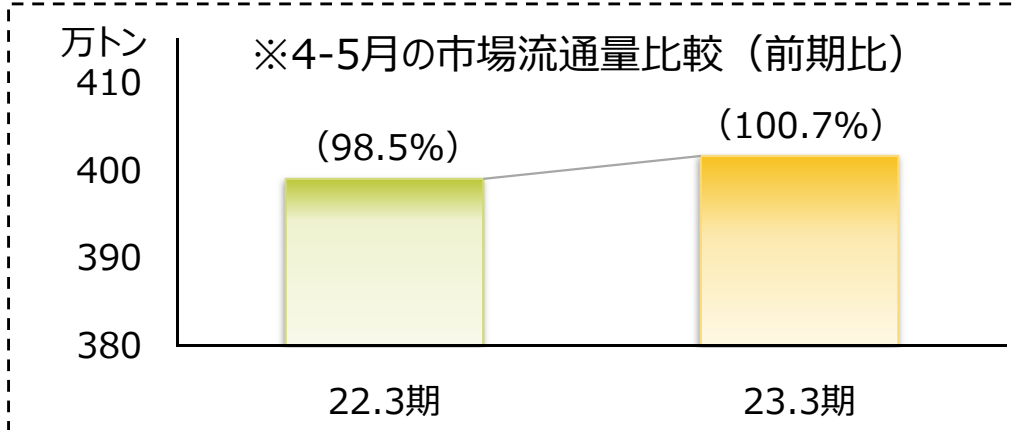
基金負担金の単価推移

◇ 高額な補てん金の交付が続いたことから22.3期上期は400円/トン、下期は800円/トン、23.3期は1,250円/トンと積立金単価は右肩上がり



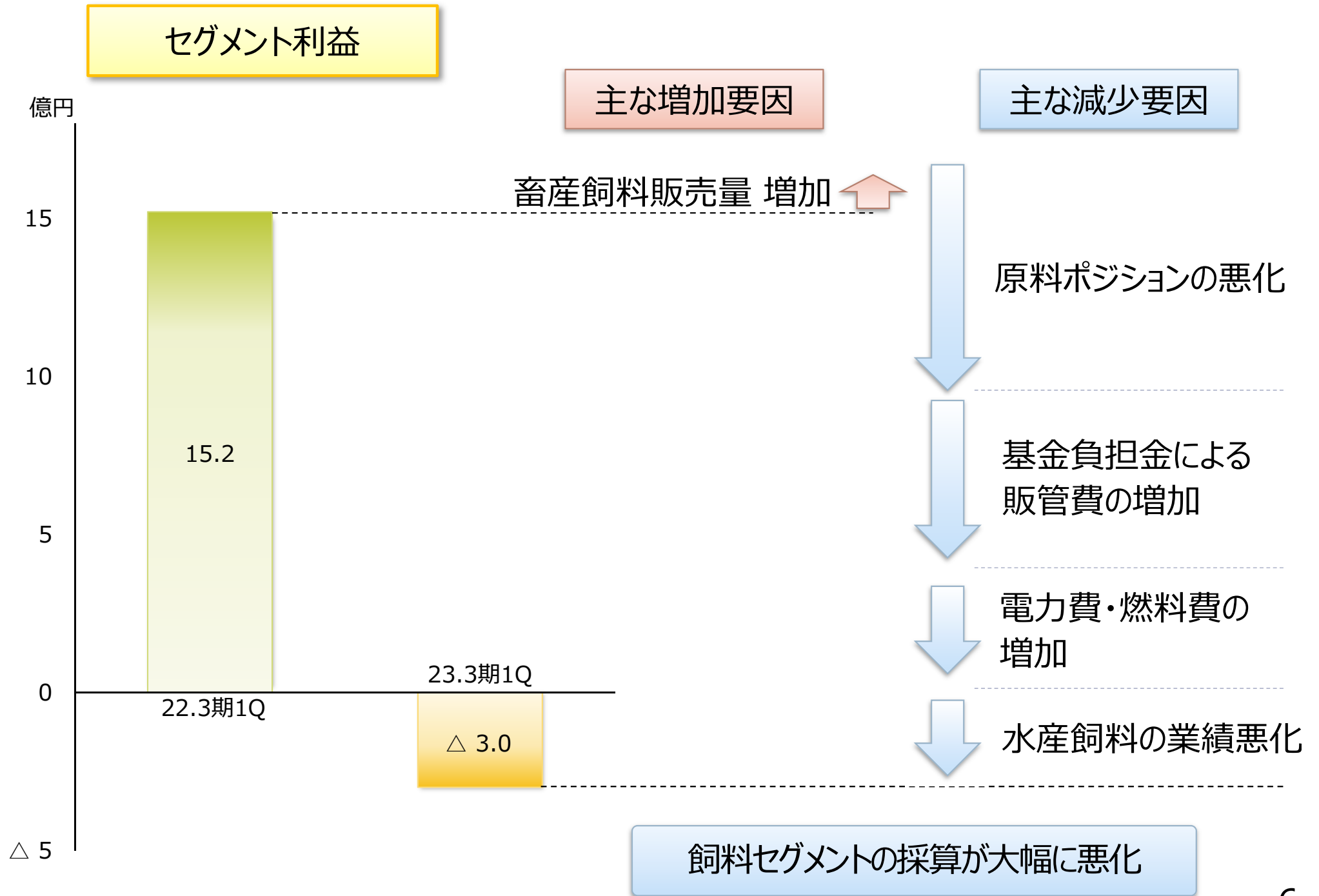
原油価格の状況



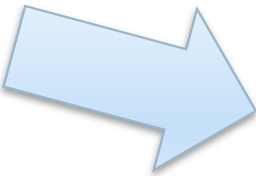


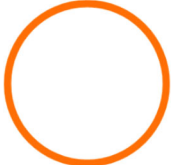


◇ 22年3月には、100ドル/バレルを突破
 ◇ 22年4-6月は高止まり





畜産飼料の市場流通量

◇ 昨年、鳥インフルエンザ感染拡大により減少した鶏の飼育羽数が回復



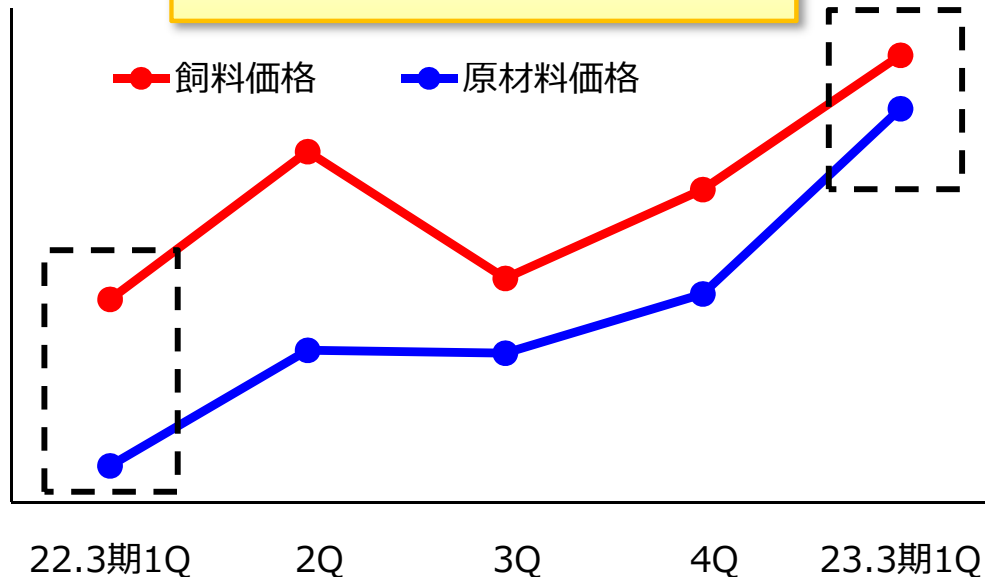
項目	前年同期比	要因	計画との比較
販売量		<ul style="list-style-type: none"> ◇ 鳥インフルエンザから回復した採卵農家へのフォローを実施し、採卵鶏用飼料の拡販に成功 ◇ ブロイラー用飼料において、生産性向上に寄与する飼料の提案営業が奏功し、拡販に成功 	
差別化飼料比率		<ul style="list-style-type: none"> ◇ 前期下期からの飼料価格高騰により、価格志向が強まった影響を受け、差別化飼料の汎用化が進行 	
電力費・燃料費		<ul style="list-style-type: none"> ◇ エネルギー価格高騰により、電力費・燃料費は大幅に増加 	
基金負担金		<ul style="list-style-type: none"> ◇ 23.3期より積立金単価は約1,250円/トンとなり6.2億円の負担増 	

※ 矢印の向きは利益への影響度を示す

項目	前年同期比	要因	計画との比較
原料ポジション		<ul style="list-style-type: none"> ◇ 穀物相場の上昇に加え、急激な円安により原材料価格が大幅に上昇 ◇ 原材料価格の上昇幅を、飼料価格の値上げ幅が下回り、原料ポジションは悪化 	

※ 矢印の向きは利益への影響度を示す

原料ポジションの状況







※原料ポジションとは

- ◇ 原材料価格は、穀物相場や為替、海上運賃等により変動
 - 飼料価格は、四半期毎に改定
 - ◇ 原材料価格と飼料価格の変動幅にギャップやタイムラグが発生
- ⇒ 原料ポジションが改善・悪化

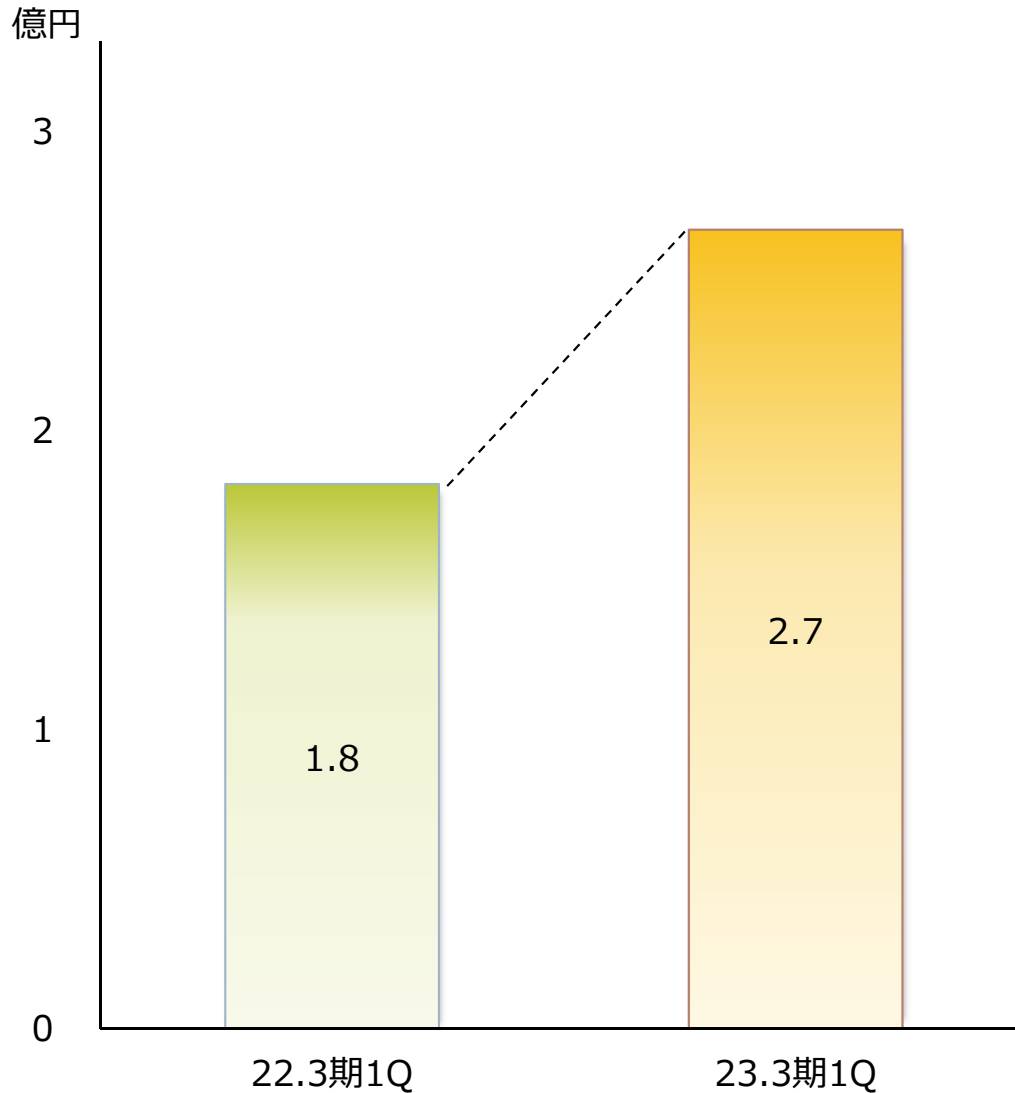
業界環境

- ◇ 飼料需要が低下（日本養魚協会所属メーカーの販売量：前年比89.8%）
 - シラス（うなぎの稚魚）の不漁により、導入量が減少
 - 前期にぶりの稚魚導入量が減少した影響を受け、今期はぶりの成魚が少ない
- ◇ 主原料である魚粉の価格が依然、高値で推移している

項目	前年同期比	要因	計画との比較
販売量		<ul style="list-style-type: none"> ◇ 飼料需要の低下を受け、前年同期を下回る ○ 前期好調のうなぎ用飼料の販売で苦戦 	
利益率		<ul style="list-style-type: none"> ◇ 水産飼料の利益率は低下 ○ 魚粉が高騰する中、競争激化が続き、原料価格の上昇分を販売価格へ転嫁できなかった ※ 水産飼料は定期的な価格改定がない 	

※ 矢印の向きは利益への影響度を示す

セグメント利益



※ その他セグメント: 鶏卵販売・肥料・畜産用機器・保険代理業等

主な増加要因

鶏卵販売

- ◇ 外食・業務用が伸び悩むも量販店向けは一定量を維持し、販売量は前年同期を上回る

肥料

- ◇ 環境負荷の少ない緩効性配合肥料の拡販により前年同期を上回る

畜産用機器

- ◇ 販売台数は前年同期を若干下回る
- ◇ 機器メンテナンス案件が増加し、利益を下支え

その他セグメントの利益増加

項目	2Q以降
畜産飼料販売	<ul style="list-style-type: none"> ◇ 全体数量は市場の伸びを上回り、計画を超過する見込み ◇ 高度な提案を実施することにより、拡販及び差別化飼料比率の向上に繋がる見込み
電力費・燃料費	<ul style="list-style-type: none"> ◇ 電力費・燃料費の増加は計画に織り込み済み
基金負担金	<ul style="list-style-type: none"> ◇ 今期は通年約1,250円/トンで継続される見込み
原料ポジション	<ul style="list-style-type: none"> ◇ 2Qは大幅に改善する見込み ◇ 通期では想定通り、前期並みの水準となる見込み

項目	2Q以降
水産飼料	<ul style="list-style-type: none"> ◇ 飼料需要の低下を受け、飼料販売量は計画を下回る見込み ◇ 魚粉価格の高値は継続し、原料価格の上昇分を十分に販売価格へ転嫁することが難しく、利益率が低下する見込み
その他セグメント	<ul style="list-style-type: none"> ◇ 鶏卵販売、肥料、畜産用機器、保険代理業の販売量は計画通りの見込み

- ◇ 飼料セグメントは、水産飼料の計画未達分を畜産飼料で補う見込み
- ◇ その他セグメントは、個々事業が引き続き堅調に推移する見込み

通期計画の達成を目指す

Q 差別化飼料とは？

A

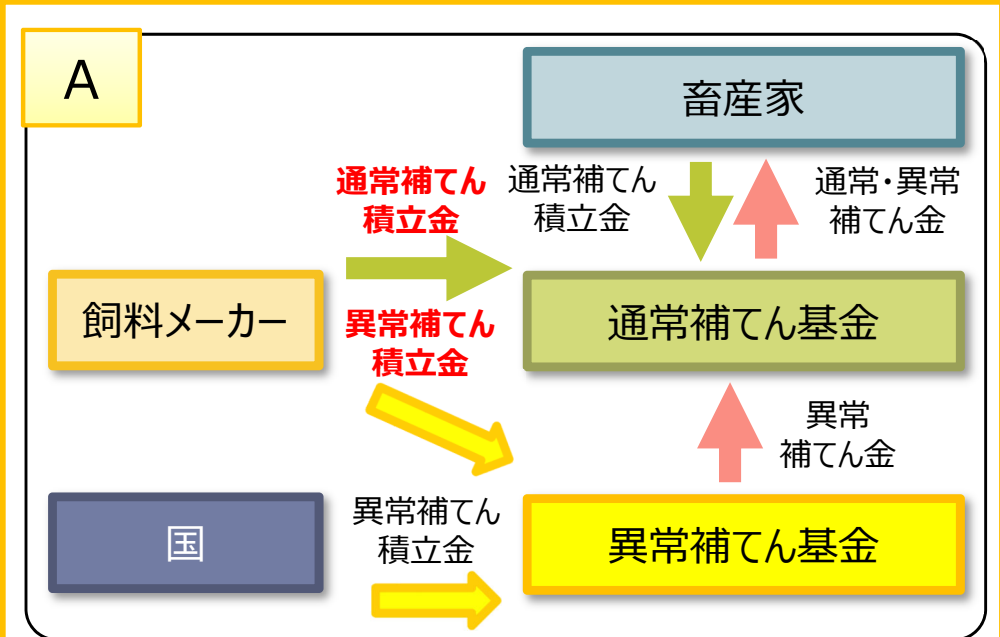
- ◇ お客様との取組みの中で開発
- ◇ お客様の生産性向上や特性ある畜産物の生産に貢献する高付加価値製品

Q ㊥の配合肥料

A

- ◇ 天然由来の原料を活用した有機入り配合肥料
- ◇ 飼料製造で培ったノウハウを生かし独自のペレット加工で製造

Q 基金負担金とは？



- 目的** ◇ 飼料価格上昇による畜産経営の影響を緩和
- 内容** ◇ 畜産家・飼料メーカー・国が積立
 ◇ 一定のルールに基づき、畜産家へ補てん金を交付
 ◇ 積立金は財源により増減



本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。